100km

阿蘇溶結凝灰岩製石棺 肥後系の古墳

石棺輸送ルート

造山古墳



瀬戸内に眠る熊本の古代人

現在、全国的な注目を集めている馬門石。

宇土を舞台にした日本古代史上の謎に皆さんも挑んでみませんか。

造山古墳と千足古墳

広島県東部)に勢力を置き、 は造山古墳。全長約350m が岡山市にあります。その名 の天皇)を凌ぐほどの勢いが 古代吉備(現在の岡山県から 高さ約31mの前方後円墳で、 時はヤマト政権の大王(後 日本で4番目に大きい古墳

> 経た現在も威容を誇っていま ニュメントとして1500年 す。山塊と形容すべきその姿 あった大豪族・吉備氏の墓で は、吉備氏絶頂期の巨大モ

「陪冢」と呼ばれる近親者な 古墳の周囲を見渡すと、 し生前関係のあった人が埋

> れないのです。 かりがあった人物の墓かもし

被葬者は宇土の古代人?

県)に分布が集中する特異な て並べた構造で、肥後(熊本 「石障」と呼ばれる板石を立の石室は、四壁に沿って 遺体が納められた千足古墳

可能性が高いといえ

りを想起させます。 両地域の密接な繋が 石棺があることも、 上に灰黒色の馬門石 造山古墳の墳丘

八王のひつぎを運ぶ実験航海 網田町)も同じ種類の石室で ものです。ヤンボシ塚古墳(上 瀬戸内沿岸に分布する

直弧文と呼ばれる幾何学文様り、石障に刻み込まれた 通称・天草砂岩が使われてお らかの関係があった古代人の 土の出身者もしくは宇土と何 で用いた装飾文様なのです。 は、この地域の豪族達が好ん た天草から宇土半島に産する 両者は大変よく似ています。 吉備氏を支えた有力者で、宇 は吉備から約500㎞も離れ おそらく埋葬された人物は 驚くべきことに、この石障

74 n m の 前

墳と呼ば に千足古

のひとつ そのうち つあり、 古墳が6 葬された

▲阿蘇石製石棺と肥後系古墳の分布 (宇土市教委:髙木恭二氏作図を一部改変)

> がありま 方後円墳

あったことを如実に示してい 具体的には同盟や婚姻関係が の豪族達の間に活発な交流、 れらの古墳の存在は、両地域 る古墳が点在しています。こ 墳以外にも肥後的な特徴があ 瀬戸内海沿岸には、千足古

保のため毎日どこかの港に停 されておらず、また物資の確 古代は夜間航行の技術が確立 石棺の輸送を例にすると、

東

シ

+

の古墳、

実はこ

葬られたと考えられます。 同盟や婚姻関係にまで発展す との間に友好関係が生まれ、 が端緒になって寄港先の豪族 泊する必要があります。これ ルにならって肥後系の古墳に なると、故郷のお墓のスタイ る場合もあったことでしょう。 肥後から嫁いだ女性が亡く

像を超えるスケールで展開し 大王と推古女帝」。 次回の5月1日号は 語りかけてくるかのようです。 の古墳や石棺は私達へ雄弁に た地域間交流の実態をこれら 1500年前、現代人の想

棺が「大王のひつぎ」として いて考えてみたいと思います。 採用されたのか、この謎につ どのような経緯で馬門石石



千足古墳の石室